

CONTENTS

第1特集 中学校学習指導要領の改訂

- インタビュー** 16 新しい学習指導要領の目指す教育 ▶市川伸一
- 解説** 20 中学校 総則における改訂のポイント ▶森友浩史
- 21 中学校 国語科における改訂のポイント ▶富山哲也
- 22 中学校 社会科における改訂のポイント ▶吉開 潔・中尾敬朗・大倉泰裕
- 23 中学校 数学科における改訂のポイント ▶永田潤一郎
- 24 中学校 理科における改訂のポイント ▶清原洋一
- 25 中学校 音楽科における改訂のポイント ▶大熊信彦
- 26 中学校 美術科における改訂のポイント ▶村上尚徳
- 27 中学校 保健体育科における改訂のポイント ▶佐藤 豊・森 良一
- 28 中学校 技術・家庭科における改訂のポイント ▶上野耕史・岡 陽子
- 29 中学校 外国語科における改訂のポイント ▶平木 裕
- 30 中学校 道徳教育における改訂のポイント ▶谷田増幸
- 31 中学校 総合的な学習の時間における改訂のポイント ▶田村 学
- 32 中学校 特別活動における改訂のポイント ▶森嶋昭伸
- 33 小・中学校学習指導要領の移行措置 ▶初等中等教育局教育課程課

第2特集 未来のエネルギー「核融合」

- 42 核融合エネルギーへの期待 ▶毛利 衛
- 44 我が国の核融合研究開発 ▶研究開発局研究開発戦略官付
- 46 国際熱核融合実験炉(ITER)計画 ▶池田 要
- 48 核融合エネルギーの実現に向けた弛まざる取組 ▶常松俊秀
- 50 幅広いアプローチ実施に向けた地元の取組と期待 ▶青森県、六ヶ所村
- 52 ヘリカル方式による核融合研究開発 ▶本島 修
- 54 レーザー方式による核融合研究開発 ▶三間國典

Color

- 1 学びのある風景 東京都葛飾区立金町小学校
- 4 鑑賞席 対決—巨匠たちの日本美術(東京国立博物館)
- 表2 動物の赤ちゃん オランウータン
- 表3 温故知新 勝沼のぶどう栽培用具および葡萄酒醸造用具
- 6 羅針盤 明日の日本、地球の未来 日本の文化を育てる教育とは
▶阿刀田高、見城美枝子、山崎正和(聞き手:合田隆史)
- 14 トピックス 文部科学省の窓
- 35 インフォメーション 「文部科学省 情報ひろば」最新情報
- 36 祭顔のアスリートたち 田嶋幸三(サッカー)
- 38 わがまちの教育遺産 伊参スタジオ公園(群馬県中之条町)
- 39 インフォメーション コミュニティー・スクールの指定状況
- 40 まちが人を育てる 宮崎県教育委員会

- 56 報告 重要伝統的建造物群保存地区の選定
- 58 国立美術館・博物館研究員は語る 東京国立近代美術館/国立西洋美術館
- 60 言葉を調査する 漢字情報データベース
- 62 地域とともに歩む社会教育施設 高知県立図書館
- 64 総合型地域スポーツクラブへ行ってみよう! どれい夢/NPO法人スボルテ目黒
- 66 進む大学教育改革 岡山大学/工学院大学
- 68 自然に学び、仲間と笑う 国立妙高青少年自然の家
- 70 本当はおもしろい! 科学技術 第49回科学技術週間
- 72 フロンティア 先端技術開発 「もんじゅ」運転再開に向けて
- 74 おしえて!サイエンス 実用化へ期待高まる人体通信
- 76 海外最新教育情報
- 78 やってみよう!スポーツ・レクリエーション タッチラグビー
- 79 文部科学省 MEXT発
- 80 列島フォーカス・都道府県最前線
- 84 編集後記

イラスト/内部清美、須田博行

合田 本日は日本の文化を育てる上で教育の果たす役割に焦点を当てて、お話を進めて行きたいと思います。次世代の文化力を担う子どもたちの育成に向けて、教育現場でなすべきこと、また社会の取り組み方について、展望をお聞かせください。

二つの「文化」と教育

山崎 「文化」とは非常に幅の広い概念で、広くは生活文化と言われる人間の暮らし方・規律があつて、弾みのある生活態度が身に付いていることが基本的な文化です。一方で、身に付いた能力を多方面に向上させていくと、俗にいう高級文化、芸術やスポーツなどが生まれてきます。

この二つは、教育とのかかわりにおいては少し分けて考えねばならないと思つています。生活文化は、教育の現場では平たく言うとしつけという形になって表れてきます。そこに何らかの規範概念が入つてきて、お行儀がよい、正しい作法に従うといった事柄となります。それは第二の本性として身に付いていないと、実際には働きません。生活文化の定着に関しては、学校教育も一翼を担うことができると思いますが、残念ながら今の学校教育では十分な取組が行われていません。例えば校舎の掃除、特に高校段階になるとほとんど清掃業者が行つていて、「自分で汚したものは自分できれいにする」というしつけが行われなくなつ

ている。学校教育のしつけに対する目配りは極めて弱いと言わざるを得ません。今後は、しつけ教育はもう少し具体的かつ日常的に回復していく必要があるでしょう。

それに対して高級文化は、公教育の観点から見れば一種のサービス教育です。国として国民に対して義務を負うものでも、それぞれの生徒が国に対して義務を負うものでもない。スポーツ・芸術などの高級文化は大切ですが、この教育について制度的にとらえるのは非常に難しいと思います。

今、中央教育審議会でも話題に挙がつていますが、クラブ活動が義務教育段階の先生の大きな負担になっているのです。そのために本来の学問の教育が圧迫される。この現状にかんがみて、中央教育審議会の答申でも、特にスポーツやクラブ活動などとはもともと地域の力を借りるべきではないかという提案をしているところです。

校長はプロデューサー

見城 公立の小・中学校の場合、校長先生はプロデューサーの役割があると思います。子どもたちに魅力を感じさせ、興味を持って参加させ、それに学校・町の人が加わる。文化とはさまざまな人の力でプロデュースされ、生み出されていくものですから、それを学校現場でどう育てるのかにはプロデューサーの資質が大きくかわってきます。例えば山崎先生がおっしゃった、クラブ

活動への地域の人たちの参加、これを総合的にどう実現・成功させるかは、実はプロデューサーである校長先生の資質にかかっていると思います。

では、何をプロデュースし、何を子どもたちに伝えてゆくのか。例えば祭りなど、伝承すべきものが明確な地域はよいのですが、市町村合併などにより、何をどう伝承すべきかわからなくなる地域も増えていきます。一方、東京の中心部では地域のステータス自体は高くとも、それは文化をきちんと伝承してステータスが上がつっているわけではない形で人氣が集まつて、町が形成されている場所も多いのです。そのような状況では地域の文化をどうとらえ、伝えていくかということすら危うい。これは文化を学ぶ教育の場で大きな問題点だと思つています。

「生きる力」の二つの方向

阿刀田 中央教育審議会でも申し上げたのですが、「生きる力」には二つ方向があると思つています。生きる糧を得るためにそれなりの技量を自分の中につけるという「生きる力」の一方で、〈ああ、俳句を詠んでこんなに慰められるんだ〉〈ピアノをたたくことでこんなに人生にはゆとりが起きるんだ〉〈絵が描けるといふことはこんなに楽しいじゃないか〉と思ふことも、「生きる力」の非常に大切な部分だと思ひます。



日本の文化を育てる 教育とは

阿刀田 高 作家

見城美枝子 青森大学教授、エッセイスト、ジャーナリスト

山崎 正和 中央教育審議会議長、LCA大学院大学学長、劇作家、評論家、演劇学者

〈聞き手〉

合田 隆史 文部科学省大臣官房総括審議官

明日の日本、地球の未来
羅金盤



ATOUDA TAKASHI

阿刀田高氏

作家、日本ペンクラブ会長。1979年「来訪者」で日本推理作家協会賞、同年「ナポレオン狂」で榎木賞、1995年「新トロイア物語」で吉川英治文学賞を受賞。文化審議会国語分科会長、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員を務める。

日本の文化は、本当にすごい。
これを日本人が知らなければ、
日本に「文化力」など
出てくるわけがありません。

学校の成績簿は上から国語、算数と順になつていて、うちのおやは上の部分だけいい成績をとってくればいいと（笑）。音楽や図工などでいい成績をとつても、将来は音楽家や絵描きになりたいなどと言われたらたいへんだと思うものだから、きちんと評価してくれなかった気がします。

もちろん、音楽家や画家はそれを職業にしていけるレベルが必要ですが、一般の方々には、少なくとも学校教育はそのレベルを期待して教育しているわけではない。ただ、こういうことを知っておくと人生にとって大事な「生きる力」にはなる。

一人の人間として生きていく慰めを植えつけるという意味の「生きる力」というものがあるということ、教育現場の方に知ってもらいたいと思います。

山崎 その点では、日本文化はかなりユニークかもしれませんね。我々が毎日読む新聞の中に、必ず読者が投稿する俳句と短歌の欄があります。これが何十年も続いて、いまだにファンがいる。これは新聞が売れ

る。明治以降の文学だつて相当のものがあつた。どの時代を切つてもすばらしいものがあります。

シェイクスピアは確かにすごいが、ではイギリスでは誰が、彼に匹敵するほどのポピュラリティを持った優れた文学を出したのか。アメリカではヘミングウェイの次に、誰が出てきたのか。他国を見比べても、日本の文学はすごいものを持っている。

日本人はこのすごさを知り、この国の持つそのような力を自分たちのよりどころにすることを、もう少し真剣に考える必要があるのではないか。大人が自分たちの文化をあまり信じていないのなら、日本に「文化力」など出てくるわけがないと感じています。

見城 建築の観点から見ると、例えば唐の時代には唐様という様式が伝わり、宋の時代には宋様式と、大陸の文化が様式として流れてきました。そのときに、日本は流れてきたもののまゝを一度は取り入れるのです。飛鳥・奈良時代から江戸に至る建築の様子を比較しても、最初は大陸から受けた影響が大きい。ところが、それらが日本人の感性によって、日本の風土に合うように柱が細くなり、屋根のそりが日本風に優雅になる。どちらがいい、悪いということではなく、和様にする力を持っている。そしてそれが国にとって大事だということを物語っていると思います。

一つの仕組みになつていゝのです。もつと端的な例が、宮中の歌会始だと思ひます。全国民が皇室あてに歌を送り、国民としての相互理解を果たす。これはちょっとユニークだろうと思います。

阿刀田 やりある時期の教育が徹底したということでしょうかね。

山崎 相当古い時代の教育の徹底だと思ひます。一方それは裏腹に、日本人にはユーモアのセンスがない。新聞にユーモア欄がありますが、あれの質が低いのは情けないこと。どうやら日本人は、叙情は上手だが、ユーモアは下手なのではないか。

見城 落語のように、オチがどんときて「おつ」と笑われる。こういう笑ひは持つていゝと思ひますが、カタカナでユーモアと言われるとわからなくなつていゝ側面はあると思ひます。

山崎 苦しいときにその苦しみをきちんと表現できれば救われますし、苦しいときにユーモアの一つも飛ばせると、もつと救われると思ひます。そうした効果を見れば、

言葉も、漢字は大陸から伝わつたものですが、さきほど挙がつた「源氏物語」に見られるような、すばらしい大和言葉に変えられます。そして自分たちの四季折々の感性に合つた文字になつていく。そうしたプロセスで、日本の文化は他国に類を見ない、すばらしいものを築き上げてきたのではないのでしょうか。

日本語の今をめぐって

山崎 確かにいゝゆる古典文学の中で、日本語は書き言葉も話し言葉も非常に高度に完成しました。ただ、明治以後の日本語改革の流れの中で、創作家・鑑賞者のレベルいづれにおいても、ましてや普通の生活をしていゝ人々のレベルにおいても、まだまだ日本語は完成しておらず、逆に危機にあると言ひます。

阿刀田 日本における指導者たちのスピーチ・話し言葉を例に挙げると、これが実に惨憺たるものなのです。

山崎 間に「え」「あ」「う」が入るのはもちろん、例えば「現代の最大の問題は……」とスピーチが始まつて、最後に「これが最大の問題であります」と言つていゝのです。最初に言ひ出した言葉を、最後まで覚えていゝない。それでも文章が完結してしまふのです。

見城 世界各国の近代語を見ても、文法

確かに文化といゝのは「生きる力」そのものなのです。

日本の文化のよさを知つていゝか

阿刀田 日本の文化は本当にすごい、このことを日本の皆さんはきちんと知つていゝでしょうか？ 優れた文化を持つ国もたくさんありますが、日本の文化は本当に世界の第一流の、ユニークな発達をさせてきた文化であること、大人たちがしつかりと知つてほしいと思ひます。

海外の人からは、日本語の特殊性という言語の問題があり、なかなか日本の文化を理解されにくい。世界的な評価の中では日本文化は実質よりずっと低い評価しか受けていゝない気がしていゝます。

特に自分が関係する文学については、日本文学は世界でナンバーワンと思つていゝます。ちょうど「源氏物語」がこゝとして一〇〇年を迎えますが、一〇〇年経つた今でも「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに……」と始まるあの日本語を、私たちは理解できます。一〇〇年前の文学を今の人が理解し、楽しむことができるのは、世界を見てもたいへんユニークなことではなかつた。

同時期には「枕草子」もあつた。「万葉集」はもつと古い時代。時代が下れば世阿弥の「風姿花伝」など本当に優れた芸術論だし、さらに下れば芭蕉もいゝる、西鶴もいゝ

的にはあり得ないことですね。

山崎 「ザ・プロブレム・イズ」で始めて、「イズ・プロブレム」で終わる文章はないのです（笑）。これはほんの一例ですが、残念ながらもまだ日本語が完成していゝうちに崩壊が始まつていゝるのです。特に現代の若者用語は、たいへんな段階に達していゝます。

見城 省略法などですね。

山崎 ええ。それらも若者の間では、三年経つと通じなくなつていゝのです。

見城 賞味期限が切れるのが早い。

山崎 例として、少し前に「MK5」といゝ言葉がありました。どういゝ意味かご存知ですか？「マジキレ5秒前」、本当に怒るぞといゝ意味です（笑）。ですがすでに、今の若い人はその言葉を理解してません。それほど早く変化していゝるのです。

見城 ほんの少し前までとても魅力のあつた言葉が、翌々日ぐらゐに「そんなことまだ言つていゝの？」と言われる状況が、今、文化を覆つていゝる。それで閉塞感が若い人の中に生まれるのだと思ひます。置いてきぼりを食うといゝのでしょうか。

現在では、あらゆる種類の情報がパソコンや携帯端末から一瞬一秒で入つてくるため、それを自らの感性、価値観でしつかり練り直し、取捨選択をして、残すべきものを残すといゝプロセスが壊れてしまひました。一瞬にして新しい概念が入つて古い概念



山崎正和氏

劇作家、評論家、演劇学者。1963年に戯曲『世阿弥』で岸田戯曲賞など受賞多数。関西大学・大阪大学教授、東亜大学長などを経て、2006年よりLCA大学院大学長。2007年からは中央教育審議会長を務める。

学校現場では、共通の日本語をしつかり教えなければならぬ。言葉とは、世代を超えて共通だからこそ言葉なのです。

が捨てられていく。考えると焦ってしまうほどのスピードで移っていきます。教育の現場でそれに気づき、どう行動に移すかが問われていると思います。

山崎 言葉とは自然に移り変わるもので、次々俗語が生まれ、それが正規の国語の中に編入されていくことは、世界的な現象で仕方のないことです。しかし、だからこそ、少なくとも学校や、あるいはプロの物書きは、それを食い止める努力をしなければならぬ。野放しにすると、言葉自体が共通の理解をもたらさないわけですから、崩壊してしまう。言葉とは、世代を超えて共通であればこそ言葉なのです。

残念ながら今の状況は、プロの物書きが言葉を支配できない状況が生まれています。例えばブログのような世界では、誰かが規範をつくって、指導するという体制が一切成り立っていないのです。

少なくとも若いときに、学校教育現場を主軸にして共通の日本語をしつかり教え込む。その道筋をつける努力を、国はしなけ

ればならないでしょう。

阿刀田 政治家は間違いなく日本のリーダーでなければならぬ人ですが、政治家の話は論理性を欠いているものが多く、何を言いたいのかわからない発言も結構多い。あれは一種の翰墨趣味だと思っていますが(笑)、時には本当に日本語の力がないのではと感じます。

政治家や学校の先生のようなある意味で社会のリーダーという人は、日本語できちんと考える、そしてきちんと日本語を話すことが必要です。そんなに難しいこととは思いません。そこから取り組まないと、言葉はどんどん貧困になります。

文化の主要な部分は、自分が属する国の言語に託されている部分がとても大きいと思います。言葉が貧困になれば文化をめぐめる状況はたいへんなことになります。

山崎 江戸時代以前の日本人は、武士は謡曲から話し言葉を学び、町人は話し言葉を浄瑠璃で学びました。当時、能は武士のもの、浄瑠璃は広く開かれていたため

たがって芝居は惨憺たる状態になりました。悪循環がぐるぐる回っているのです。

地域がはぐくむ文化力

見城 学習指導要領では、その地域の文化を大事にして伝承していくという部分がありますが、学校で実践するにもどうしていいかわからない、指導できる人がいないと思うのです。先生たちは、その町の出身でない場合がほとんどですから、地域の文化を伝える役割は難しいのです。

その地域の子どもたちが(私はこの町で生まれ、育ってよかった)と誇りを持ち、そこに文化が熟成されてくるといいますが、そのきっかけが学校にない。これは伝承をめぐる大きな問題点です。

この問題を克服した成功例が、東京中心部の渋谷区にある区立臨川小学校にあります。周辺の進学校・名門校に吸い取られて、創立二二〇年を迎えるこの学校は消えるのではないかと随分前に言われていたのですが、今、徐々に力を取り戻して、生徒

数が増えたのです。

その原動力は、二代にわたって非常にいい校長先生に恵まれたこと、その校長先生が町に対して門戸を開いたことです。町にはお寺があり、そこのご住職のお力により専門家の協力が得られ、今、その小学校は能と狂言をクラブ活動に取り入れてあります。お寺があれば必ずお茶・お花と関係がありますから、それらの先生たちも指導に来てくださいます。学校の二三〇周年祭では子どもたちが能を基盤とした表現活動をもくことに発表しました。

今ではこの学校を卒業した中学生たちも参加して、この取組には「夢クラブ」という名前がつけました。ここでは日本の伝統文化の重鎮とも言える能と狂言、謡曲で動きと言葉を学び、それから和楽器を演奏します。学校教育で扱うのは洋楽器ばかりで、和楽器はほとんど触れる機会がありません。しかしその学校では、能や狂言に触れることから始まり、子どもたちが和楽器に興じるようになりました。

子どもたちが地域に誇りを持ち、そこに文化が熟成されてくる。

地域には、実は伝承をしてくれる人がたくさんいるのです。

です。彼らはそれぞれの場所で、話し言葉が書き言葉にしつかり支えられている構造を持っていることを学んだのです。逆にそうした見識を持っているからこそ、能も浄瑠璃もおもしろい。つまり文化が栄える、といういい循環があったのです。

ところが近代の日本は、話し言葉の訓練をしていないのです。明治から戦後にかけて数々にわたり国語教育の改革が行われ、話すように書くということをお教えました。これが日本の公教育の方針です。しかし話し言葉をきちんと教わっていないので、話すように書く、結果むしろくちやを書くことになってしまっています。

日本で小学校以来教ええられる芸術は、音楽・美術に限られます。演劇の教育、もう少し広い意味で言えばスピーチの教育というものはなかなか行われません。

教育の力とは大きなものでして、子どもたちは、学校で教えてくれる絵画と音楽には関心を持ちます。いわゆるクールジャパンと言われる、今、世界を席巻しつつある大衆文化を見てください。音楽が美術のみです。アニメーション、漫画、フォークソング、ポップス。これは何十年来の音楽・美術教育の成果なのです。

一方、残念ながら話し言葉の教育には、そのサイクルが成立していません。子どもたちはスピーチに関心を持たないし、演劇を観に行こうという関心も生まれません。

そうして子どもたちは、自らの町に自信を持つて動けるようになりました。普通の公立の小学校でこうした取組が成功したのは、何より地域に門戸を開いたことが要因です。地域には、実は伝承してくれる人がたくさんいるのです。

阿刀田 地域の指導者が大切という観点からは、スポーツからも見て取れます。今の高校野球では、学校教育の中に、クラブ活動としての野球が極めて密接に入ってしまったのです。生徒を集めるために野球を強くし、学校を有名にする。また、高校野球が青年の心の発露であると言って、マスコミも含めてたいへんな力を注いでいる。しかし、これは結構弊害も大きいのではないのでしょうか。

一方、サッカーは地域社会に根ざし、地域とともに発達させてきた伝統があります。サッカーが強い学校ももちろんあり、野球と同じシステムで優秀な選手を学校に集め、学校・地域の名を高めようとする向きもありますが、サッカーはまだ地域社会と密接に結びつきながら、地域の指導者が学校とは別のところで人を集めて、指導するという方向を保っています。

そのほうがスポーツの発展の在り方としても正しいと思います。文化の伝承の形態としても、学校だけを中心にヒエラルキーをつくっていくよりは、地域の指導者がきちんと育ち、伝承にどんどん参加すること



KENJO MILKO

見城美枝子氏

青森大学教授、エッセイスト、ジャーナリスト。TBSアナウンサーを経てフリー活動、海外取材を含め56ヶ国以上を訪問。2007年まで中央教育審議会委員、現在も政府各審議会委員を務める。

日本の文化を育てる教育とは

国は、たぶん政治の最高レベルまでいって考

考えがなかなか伝わりにくいため、まさに今、困った問題が各地で起こっていると思

例えば関西では、文化行政を大幅に見直すという計画を立ち上げようとしている自治体もあります。また別のところでは、長年の間文化立県に励み、その結果次第に若者がその地域へ関心を持ち、多くの私立大学がキャンパス移転するなど若者が増え、地域振興の効果も出ていた。それなのに、現在ではそれに対する反動が出て、「文化行政はぜいたくだ」という声に押されているのです。

一方、兵庫県は、阪神・淡路大震災の後からむしろ文化立県をスローガンにして、建設された美術館や芸術文化センターを中心に現在も一所懸命取り組んでおられるようです。このように、知事ないしは地方議会の考え方によっては、地方間で非常に大きな差ができてしまうのです。

東京だけは別です。東京には、例えば国立劇場・新国立劇場があり、間接的な形で国がさまざまなサポートをしている。ここは大いに栄えています。その結果、皮肉にも再び東京集中が進んでいるのです。

文化の統一な行政、あるいは国の統一的なサービスという点から甚だしく公平を欠く状況です。しかし、今の制度ではこの不公平は直しようがない。どう解決するかは、たぶん政治の最高レベルまでいって考

えがなかなか伝わりにくいため、まさに今、困った問題が各地で起こっていると思

例えば関西では、文化行政を大幅に見直すという計画を立ち上げようとしている自治体もあります。また別のところでは、長年の間文化立県に励み、その結果次第に若者がその地域へ関心を持ち、多くの私立大学がキャンパス移転するなど若者が増え、地域振興の効果も出ていた。それなのに、現在ではそれに対する反動が出て、「文化行政はぜいたくだ」という声に押されているのです。

一方、兵庫県は、阪神・淡路大震災の後からむしろ文化立県をスローガンにして、建設された美術館や芸術文化センターを中心に現在も一所懸命に取り組んでおられるようです。このように、知事ないしは地方議会の考え方によっては、地方間で非常に大きな差ができてしまうのです。

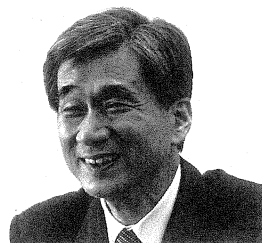
東京だけは別です。東京には、例えば国立劇場・新国立劇場があり、間接的な形で国がさまざまなサポートをしている。ここは大いに栄えています。その結果、皮肉にも再び東京集中が進んでいるのです。

文化の統一な行政、あるいは国の統一的なサービスという点から甚だしく公平を欠く状況です。しかし、今の制度ではこの不公平は直しようがない。どう解決するかは、たぶん政治の最高レベルまでいって考

(聞き手)

合田隆史

文部科学省大臣官房総括審議官



が望ましいと思います。野球は今、そのような仕組みになっていないでしょう。

山崎 野球はかなり職業学校化しています。リトルリーグといういわば予備校もあり、大変な親の競争心で子どもに野球を教えて、有名野球校に入って、末はプロ野球に行く。もうコースができ上がっているのですね。

阿刀田 地域の人たちが高校生を集めて強いチームをつくっても、高校野球大会には出られませんからね。

サッカー的な、地域社会を組み入れたような文化の伝承をやっているかという言い方ではないか。

文化を大切にすると社会に向けて

合田 日本文化を海外に向けて発信する、また国際交流を経てより文化を高める取組も重要だと思っています。こうした観点からはいかがでしょうか。

山崎 今の日本文化、特に現代の若者文化については、ほうとうにおいても世界に広がっています。クールジャパンの流れは世界にはほぼ確立しているくらいです。そこから生活文化、特に女性の暮らし方は世界に広がりがつづき、日本の女性雑誌がそのままアジアで売られている状況です。

しかし問題は、それについて日本側から発信される解説がないということです。意味づけがない。かつてアメリカは大衆文化

を世界に発信するにあたり、「American Way of Life」という

総括スローガンを打ち出し、それはどういうものかということから世界に送ったのです。時に説教がましきもありましたが、絶えず説明を含めた文化発信をやってきた。

それに対して日本の場合、古典的な文化の発信でさえも、その説明がないのです。例えば歌舞伎、能を外国に持っていくと、彼らはあきれるだけなのです。この文化と、大量に入ってくる自動車、携帯電話の産業とはどうつながっているんだ、日本人は分裂しているのではないかと受け取られる。そこに一つの解説を加えた発信を行うと、理解が進むのだらうと思います。

見城 国際文化という、英語などの語学とすぐ結びつけてしまいがちですが、たとえ外国語を学んでも、日本語ができていなければその外国語はおかしな文章になっているはず。文化の原点にある国語のとなえ方としても、そうした認識を持つて授業をやっていた方がいいと思います。

私たちは皆、洋服を着ていますが、和服という日本の着物、そして礼儀作法が今も残っていることに私は感謝するのです。いざ世界へ出たときに、日本の伝統である和服を着て、日本の文化を何か一つ披露できれば、英語ができようがダメでも全く関係ない。本心に尊敬を受けるのです。

世界でなぜこれだけ戦争、内紛、テロが

えることではないかと思っています。

先生の文化力

見城 私は先生方に、なぜ社会科で自分たちの住む町というところから始めるのか、考えていただきたいと思っています。自分が生まれ育ってきた地域に誇りを持つて、それが教育の出発点です。授業を構築する場合でも、例えば小学校三年から社会科が始まりますが、単純に教科書に沿って、まず自分たちの住む町、東京なら区、そして国、世界へという手順で教えていくだけでは、何の意味もないと思うのです。空間的な把握だけでなく歴史的・時間的な認識をもとに、なぜ私はここにいるのか、私はこれからどこへ行くのかという、やや哲学的な言い回しになりますが、そうした目的を意識する必要があります。教える先生が文化的にも豊かであれば、子どもたちはその意識を共有していくと思

うのです。これこそ、文化が伝承されていくための教育の仕組みだと思います。

図書館の充実

阿刀田 文化を発達させてきた方法はさまざまありますが、日本の近代文化の中では読書がインテリジェンスをつくってきたことは間違いないと思います。日本人はこのことを大切にしてきました。読書を通して言葉も大切に、国語力を培うのはもちろん、

絶えないのか、結局は自分たち民族の文化をないがしろにされていることが問題なのです。それを先生方が理解した上で教壇に立っていただければ、国語のありがたさ、礼儀作法をどう守るか、また日本の文化をなぜ子どもたちに伝承すべきなのかという理由がわかるのではないかと思います。

合田 最後に、行政や現場へのご提言をいただきたいと思います。

山崎 国内的な文化政策の向上のためには、国が責任を持って、日本中すべての人々に文化の施設、勉強の場、あるいは楽しむ場を提供していかなければならない。むしろ中央集権化を進めるべきです。

高級文化に関しては、国の行政の枠組みでは文化庁の担当です。その文化庁は相対的に力が弱い。現在の青木(保)長官、その先代は河合(筆雄)さん。お二人とも私の友人でして、非常に頑張られているのですが、なかなか苦勞があまりのようです。これは、文化行政が非常に地方の分権化が進んでいることも要因です。

文化庁は現在、地方に足を持っていません。文部科学省は各教育委員会を通して情報収集や指示が行われ、職員も派遣されている。しかし、各県が文化面を担当させているのは教育委員会ではなく、知事部局です。ここに対しては文部科学省・文化庁の

社会・算数などさまざまな分野も国語を基礎にできているわけですから、それにも役立つのです。

読書を見直すための政策として、具体的には、図書館をどれだけ魅力的で充実したものにするか。これは教育の中でもやらねばならないこととして(学校教育法に)掲げられていますが、実質的にはまだです。

海外の学校ですと、門を入って最も良い場所に図書館がポーンとあって、授業では課題図書を読まなくて三冊、四冊読んで来いと預けられる。授業とは本を読むことだという教育をやる国もたくさんあります。

もう一回図書館に目を向けるべきです。図書館は一種の娯楽の機関でもあり得るわけで、それを文化行政の中ではつきりと成果がわかるように顕著に示していただきたいと、政治・行政には望みたい。効果は必ずあると思っています。

見城 どんどん時代が変わってきて、放送と通信の違いや、基本的なメディアリテラシー、そんなこともわからないままネット社会で失うものを失い、問題を抱えている子どもたちがたくさんいます。ブログやプロフィールは果たしてかつての日記文学のように将来、文化の一端を担うのか、言葉のくず箱と化するのか。文化を支える教育を考えるとインテリジェントはもはや欠かせませんし、メディアリテラシーは重要な部分だと思っています。

絶えないのか、結局は自分たち民族の文化をないがしろにされていることが問題なのです。それを先生方が理解した上で教壇に立っていただければ、国語のありがたさ、礼儀作法をどう守るか、また日本の文化をなぜ子どもたちに伝承すべきなのかという理由がわかるのではないかと思います。

国の責任

合田 最後に、行政や現場へのご提言をいただきたいと思います。

山崎 国内的な文化政策の向上のためには、国が責任を持って、日本中すべての人々に文化の施設、勉強の場、あるいは楽しむ場を提供していかなければならない。むしろ中央集権化を進めるべきです。

高級文化に関しては、国の行政の枠組みでは文化庁の担当です。その文化庁は相対的に力が弱い。現在の青木(保)長官、その先代は河合(筆雄)さん。お二人とも私の友人でして、非常に頑張られているのですが、なかなか苦勞があまりのようです。これは、文化行政が非常に地方の分権化が進んでいることも要因です。

文化庁は現在、地方に足を持っていません。文部科学省は各教育委員会を通して情報収集や指示が行われ、職員も派遣されている。しかし、各県が文化面を担当させているのは教育委員会ではなく、知事部局です。ここに対しては文部科学省・文化庁の

社会・算数などさまざまな分野も国語を基礎にできているわけですから、それにも役立つのです。

読書を見直すための政策として、具体的には、図書館をどれだけ魅力的で充実したものにするか。これは教育の中でもやらねばならないこととして(学校教育法に)掲げられていますが、実質的にはまだです。

海外の学校ですと、門を入って最も良い場所に図書館がポーンとあって、授業では課題図書を読まなくて三冊、四冊読んで来いと預けられる。授業とは本を読むことだという教育をやる国もたくさんあります。

もう一回図書館に目を向けるべきです。図書館は一種の娯楽の機関でもあり得るわけで、それを文化行政の中ではつきりと成果がわかるように顕著に示していただきたいと、政治・行政には望みたい。効果は必ずあると思っています。

見城 どんどん時代が変わってきて、放送と通信の違いや、基本的なメディアリテラシー、そんなこともわからないままネット社会で失うものを失い、問題を抱えている子どもたちがたくさんいます。ブログやプロフィールは果たしてかつての日記文学のように将来、文化の一端を担うのか、言葉のくず箱と化するのか。文化を支える教育を考えるとインテリジェントはもはや欠かせませんし、メディアリテラシーは重要な部分だと思っています。

東京国立博物館

住所：〒110-8712

東京都台東区上野公園13-9

電話：03-5777-8600（ハローダイヤル）

URL：http://www.tnm.jp/

◇アクセス：JR上野駅公園口・鶯谷駅より徒歩10分。
東京メトロ上野駅・根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分。

◇開館時間：9:30～17:00

ただし2008年4月～11月の土・日・祝休日は18:00まで、2008年4月～11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで開館（入館は閉館30分前まで）。

◇休館日：月曜日（祝休日にあたる場合は開館し、翌火曜日休館。2008年8月11日は開館）

2008年6月24日は臨時休館。年末年始（12月28日～1月1日）

「芥子」

◆葛飾北斎（かつしか・ほくさい 1760～1849）筆
江戸時代・天保初年頃（1830年頃） 横大判錦絵

風にあおられて、弓のように反ってゆらゆらと揺れる芥子の花が描かれています。描いたのは、葛飾北斎。日本の芸術家として世界で最もよく知られた江戸時代の浮世絵師です。90歳で亡くなるまで絵を描き続け、自ら画狂人と呼ばれました。北斎の作品で一番有名なのは、「冨嶽三十六景」のシリーズですが、それが描かれたのは、70歳になった頃のことでした。この花鳥図も同じ頃に描かれた作品で、同じ版元の西村屋と八から出版されました。北斎は、数多くの作品を制作していますが、本格的な花鳥版画を制作したのはこのシリーズが初めてのことでした。70歳になっても、まだ芸術創作に対する意欲は衰えをみせていなかったのです。むしろこれから新しいことに挑戦していくといった気概が画面にあふれています。

「芥子」を含んだシリーズは、版元・版型にちなんで「西村屋版横大判花鳥図」と称され、10枚で構成されていますが、細線で硬質に描かれた5図と、本図のように墨線に変化をつけて質感を表すような筆使いの5図に分けられます。動きに富んだ芥子は、人間が両手を挙げて踊っているようにも見えます。円運動を感じさせる構図は、北斎の代表作として知られる「冨嶽三十六景・神奈川沖浪裏」とも共通しています。

（絵画・彫刻室室長 田沢裕賀）

次号(7月号)予告

第1特集

北京オリンピックに向けて

第2特集

環境を考慮した 学校施設づくり

羅針盤

対談：科学技術が社会に應えるために

相澤益男／安西祐一郎

編集後記

就職活動をしている方々は、今、大変な時期でしょう。将来の自分を思い浮かべながら、日々、目標に向かって頑張っていることと思います。私もこの時期、大変な思いをしたことを覚えています。やりたいことが何なのか分からなくなったり、やりたいことが自分に合っているのか不安になったりと、考えてもきりが無い悩みがいくつも湧いてきて、その状況から逃げ出したくなった時もありました。

とえ目標を見失いかけたとしても、がむしやらに頑張っていれば自ずと答えが見えてくるということです。その時見えた答えが、本当に正しいのかなんて誰にもわかりませんが、むしろ正しいと思って、その目標に向かって一生懸命に頑張ることで正しい答えになるのかもしれないですね。将来なんて、誰にも分からないことです。なぜなら、それは自分次第でいくつもの答えが生まれてくるからです。

（梶）

MEXT.61

月刊

文部科学時報

6月号 第1589号

平成20年6月10日印刷
平成20年6月10日発行

●著作権所有 文部科学省[®]

●発行所 株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 03-5349-6666（営業部）

フリーコール 0120-953-431

URL http://www.gyosei.co.jp

●印刷所 きょうせいデジタル株式会社

本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価700円〔本体667円〕（〒92円）
年間購読料8,400円

ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。